

▼「あらアンドン、久しぶりだごど」。買い物よりも話に花が咲く住民の姿も(18日、おしかのれん街)



「売る喜び」と「買う楽しさ」



▲漁業者の妻らによる手作りキーホルダーや置物が人気(19日、おがつ店こ屋街)



▲タイやヒラメ、秋サケなど新鮮な魚が安く売られた(19日、おがつ店こ屋街)

▲久しぶりの地元でのショッピングに自然と笑顔も(18日、おしかのれん街)



カメラリポート

東日本大震災の津波で被害を受け、住民生活の機能が失われた石巻市の牡鹿、雄勝地区に仮設商店街が誕生した。18日は鮎川浜の牡鹿公民館向かいに「おしかのれん街」、19日には市雄勝総合支所敷地内に「おがつ店(たなこ屋街)」が開店。それぞれのオープニングセレモニーではもち撒きやステージイベントなどが繰り広げられ、地域に久しぶりのにぎわいが戻った。

顔も(18日、おしかのれん街)



、住民生活の機能が失
設商店街が誕生した。18
おしかのれん街」19日
つ店(たな)こ屋街)が
てーでは、もち撒ぎや
れ、地域に久し振りの



▲タイやヒラメ、秋サケなど新鮮な魚が安く売られた(19日、おがつ店こ屋街)

仮設商店 待望のオープン



▲祝いのもち撒ぎに押し寄せる大勢の住民(18日、おしかのれん街)

おがつ店こ屋街 おしかのれん街

たな

▶伝統文化の雄勝法印神楽も披露。勇壮でユーモラスな舞に大きな拍手が送られた(19日、おがつ店こ屋街)



▶お買い得の品を聞けるのも顔見知りならではの(18日、おしかのれん街)



▶雄勝中生はタイヤを利用した復興輪太鼓を演奏(19日、おがつ店こ屋街)